

ト★ 東星学園だより

TOSEI

東京都清瀬市梅園 3-14-47 TEL 042-493-3201 <https://www.tosei.ed.jp>

□ 西武池袋線秋津駅 南口 徒歩 10 分 □ JR 武蔵野線新秋津駅 徒歩 15 分

vol. 31

橋を創る

校長 大矢正則

授業中に、突然、(そんなことはしません)怖い絵のスライドを提示すると、大きな音を出すのと、何か危険を感じさせるような匂いを発生させるのでは、どれが瞬時に教室内の生徒たちに恐怖を与えるか。想像していただくまでもなく、それは大きな声を発することです。生理学的に説明すれば、スライドを見る、すなわち、視覚から恐怖を感じるためには、目に入る光の量を調節し、しかも方向を定めて焦点を合わせる必要があります、「瞬時に目に入る」といっても最低限の時間がかかります。匂いを嗅がせる方法、つまり嗅覚に関しては、匂いの元となる化学物質の拡散に一定の時間を要します。ところが、大きな音を出す聴覚に訴える場合は、音の速さは教室内では問題にならず、しかもヒトの耳は聞こえ方の強弱こそあれ 360 度全方向からの音を瞬時に捉えることができるゆえ、爆発音、雷鳴、木の折れる音、獣の吠える声などが聞こえると、瞬時に危険を察知する能力がヒトには備わっています。脳の仕組みで考えても、聴覚から入った信号は視覚信号より短経路を通して処理されるため、「何が起きたか」を理解する前に怖い音に反応します。何か大きな音が聞こえた場合、「えっ、なになに。今の音なに？」と震える人の姿を見たことがあるでしょう。突然の大音量にヒトが飛び上がるのは、その音が何であるかを脳が認識する前に防衛反応を出しているからです。

進化論のダーウィンは、恐怖を動物の生存に必要な本能という考え方を示し(1872年)、心理学者のジェームズもまた、恐怖を生得的な情動と位置づけました(1890年)。古代まで遡れば、アリストテレスが、恐怖を悪の予期から生じる苦痛や不安と定義しました。中世ではトマス・アクィナスが、奴隷的な恐れではなく愛への恐れこそが信仰の成熟であると説明しています。

恐怖という熟語は、「恐れ」と「怖れ」から成る同義

複合語です。畏怖という熟語もあります。「畏れ」も「おそれ」と読みますから同義複合語の一種です。しかし字解などによると、「怖」は体でびくっとするようなおそれ、「恐」は頭で理解して構えるおそれ、「畏」は心でひれ伏すような畏敬を含むおそれであることがわかります。聖書にも「主を畏れることは知恵の初め」(箴言 1:7)、「主を畏れる者は幸い」(詩編 128:1)など、神への畏れが知恵や祝福、あるいは従順の源であることが語られています。

従順と書いたところで、この夏にある修道会の神父様からうかがった誓願の話思い出しました。誓願とは修道者が修道生活を送るにあたって、神に対して立てる誓いです。それは、貞潔、清貧、従順の3つからなります。修道生活を送られている修道会司祭やシスターから3つの誓願の話をお聞きすると、必ず貞潔、清貧、従順の順に口から出てきます。

清貧とはものを持たないことであり、従順とは上長に服従することです。前者は俗世の執着から自由になることが目的であり、後者は上長を通して示される神の御心をその身に実現することが目的であるわけですが、どちらも目に見えます。

貞潔はどうでしょうか。これは結婚しないこと、性的関係を持たないことではありません。貞潔とは神への全面的な愛を選ぶということです。いつでも、どこでも、誰に対してでも、神に全面的な信頼を寄せ、神の招きを拒むことなく、神から離れず、神と共にあるということです。一人でいてもそうでないときも、常に神を選ぶということです。まさに「神を畏れる」ということです。

神への畏れは、あらゆる恐れを退けます。そして、この神への畏れとは、清貧や従順と異なり、目に見えないものです。貞潔は神の国を証する生き方です。

東星学園は90年前に修道者であるヨゼフ・フロジャク神父様が建てられました。その目的は神の国とこの世を繋ぐ橋を創るためであり、今も建設中です。

中学校・高等学校

第56回合唱祭

合唱祭委員長 高等部3年 K・K

7月3日に所沢市民文化センターミュージック・マーキーホールにて第56回合唱祭が開催されました。

中学生は音楽の授業内で練習をしてきた自由曲を2曲発表し、高校生は課題曲と自由曲をコンクール形式で競い合いました。

各学年本番までの約4週間、授業内、お昼休み、放課後、高校3年生は選択授業のため5、6限の空き時間に練習に取り組みました。設けられた時間外にも友達や先生へ声をかけ、練習に自ら取り組んでいる学年もありました。各学年練習の成果を発揮し、それぞれの個性を出した合唱祭となったと思います。

中学生の部では、中学1年生は入学後大きな行事としては2回目、合唱祭は初めての経験でした。トップバッターという緊張感が漂う中でも、一人一人が声を出し、ホール中に綺麗な歌声を響かせていました。中学校2年生は、馴染みのある曲を選択していたので、楽しみながら聴くことができました。中学校3年生は、中学校最後の合唱祭という意識も感じられ、迫力がすごく、声量も揃っていて、会場全体を包み込むような演奏でした。

高校生の部の課題曲は安岡優さん、松下耕さん作曲の「言葉にすれば」でした。

高校1年生は課題曲が難しい中、自由曲も難易度が高い曲に挑戦していて、男女共に一生懸命歌っている姿に感動しました。高校2年生は人数が少ない中でも女性が歌った後に男性の声も同じ声量で聞こえてきて、さら

にピアノの音色も歌声を引き立てるように聞こえてきて、これこそが合唱だと感じさせられました。

そして、私たち高校3年生は受験の準備や受験勉強、選択授業などがあり、なかなか全員が揃って練習することができませんでした。そんな中、合唱祭委員以外にも友達同士で声を掛け合い、休み時間に教室から音楽室まで距離がある中でも「みんなで合唱を合わせられる時間が少しでも多くなればと思って」と言って音楽室に何度も足を運んでくれました。課題曲はリズムに惑わされていたので、何度も練習をし、みんなで一つ一つ丁寧に確認し、教え合いました。歌詞を暗譜するのに時間がかかる中、自由曲の練習もしなければならぬと焦りを感じ、時には意見を出し合い、その中で衝突する場面もありました。しかし、話し合いの中で必ず一致していたことは「最後の合唱祭で最優秀賞を取りたい」という強い気持ちです。学年の全員が同じ目標に向かって頑張っていたからこそ、毎回練習時間があつという間に終わってしまう日々でした。本番当日、みんな緊張している様子が見られましたが、私たちは、本番に強い学年なので、練習の成果が最大限本番で出せたと思います。その結果、私たちが目指していた「最優秀賞」を取ることができました。学年のみんなも先生方も涙を流していて、ここまで合唱祭委員を務めてきて色々悩むこともありましたが、最後まで「合唱祭」という行事に携わることができて良かったと感じました。

歌は人それぞれ得意、不得意があると思いますが今回の合唱を機に少しでも歌を歌う事が好きになり、自信に繋がったら嬉しいです。



被災地ボランティア

宗教部

夏休みに福島県南相馬市での被災地ボランティアを実施しました。活動2日目にカムチャツカ半島沖で発生した地震による津波警報が発令され、行程を一部変更することになりましたが、無事に活動することができました。参加者からの声をいくつ



か掲載します。

『私は今回のボランティアに参加して良かったです。(中略)お世話をしてくださったカリタスの方々や、訪れた施設の方々全員笑顔で明るく、沢山福島について教えてくれてとても感動しました。まだまだ復興には長い道のりがありますが、福島の方々と共に頑張っていきたいです。(高1)』

『被災地に行く前の私は被災地の方とどのように接していいかわかりませんでした。しかし私が思っていたよりも被災地の方は前向きでした。震災の避難生活から身につけた知恵を楽しくわかりやすく教えてくれたり、たくさんお土産を持たせてくれたり、福島の人たちは前向きだなと思いました。私はこれから、福島の方々に教わった優しさや知恵を活かして生活しようと思いました。(高1)』

夏の部活動

バスケットボール部顧問

例年にも増して厳しい暑さが続いた今夏、バスケットボール部の部員たちは日々の練習に熱心に励みました。体育館の気温が高く使用が難しい日には、講堂や別の施設を活用し、環境に応じて内容を工夫しながら練習を継続してきました。残念ながら今年度は恒例の夏合宿が中止となりましたが、その代替として夕方からの練習を行い、終了後には部員で花火を楽しむ時間を設けることができました。練習の積み重ねに加えて、こうした交流を通じて部員同士の絆や親睦を深められ

たことは、大きな収穫となりました。対外試合においては強豪相手に苦戦する場面も多くなりましたが、それぞれが光るプレーを見せる一方で、勝利に届かず悔しい思いを味わうこともありました。その悔しさは次の課題を意識する大きな原動力となり、同時に自らの成長を実感する機会ともなりました。これらの経験を糧として、部員一同はさらなる技術向上を目指し、今後も一層努力を重ねてまいります。



聖書朝礼委員会夏期研修

委員長 高等部3年 Y・Y

私達は夏期研修として、横須賀自然・人文博物館、カトリック横須賀三笠教会、聖ヨゼフ病院を訪れました。

博物館では江戸時代から現代までの三浦半島の歴史と民俗や横須賀の都市化と暮らしの変化を、昔の漁船や港のジオラマなどの展示物によって楽しく学ぶことができました。三笠教会では木彫の落ち着いた雰囲気の中で黙想をすることができました。

午後は聖ヨゼフ病院でボランティア活動を行いました。病院見学から始まり、患者さんに必要な医療用テープのカット、握り棒などの製作を地元の薬学生に丁寧に教えていただきながら作業に取り組みました。最後に患

者さんとお話するスピリチュアルケアを体験しました。聖ヨゼフ病院は聖テレジア会に属し、その理念の基本精神は“人間を尊重する”です。聖ヨゼフ病院はこの理念を「スピリチュアルケア」として具現化し実践しています。私たちは今回“傾聴する”という形で実践しましたが、今まで認知症の方や耳の遠い高齢者の患者さんとお話する機会は少なく、初めての体験に緊張しました。話が續かなかったり話しかけられなかったりと傾聴の難しさを肌で感じましたが、今自分達にできる精一杯の奉仕をすることができたと思います。

今回の研修を通して、多くの人と関わりを持ちお互いに尊重しあう経験を得ることができたと思います。委員それぞれに様々な思いがあったと思いますが、それらの気持ちを大切に、これからの学校生活に生かしていきたいと思っています。

第32回 都留市ふれあい全国俳句大会 入選!

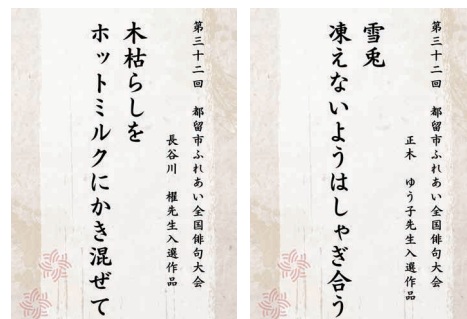
高等部2年 K・R

この度は「入選」という素晴らしい賞をいただき、ありがとうございます。とても嬉しく思います。俳句や短歌、詩を作成するのは元から好きだったので、賞をいただけるとは思っていませんでした。先生から話を聞いたときは驚きました。俳句は17字で情景を表現しなければならぬのでとても難しく、苦戦したことを覚えています。

俳句を詠んだのが冬だったこともあり、冬の寒さが和らぐような言葉を入れたいと思い、作成しました。

1つ目の俳句は私自身が冬によく飲む「ホットミルク」と冷たく強い風の「木枯らし」を組み合わせました。2つ目は冬の季語として「雪兔」を入れ、雪兔が本当のうさぎのように走ったり跳んだりしてはしゃいでい

るところを想像して、俳句にしました。普通ならあり得ないことでも、想像を楽しみながらうまく表現できるようにイメージが伝わるように、工夫しました。自分が描きたいものを短い語数でまとめるのは大変でしたが、どんな季語や言葉を使おうかと考える時間はとても楽しかったです。普段日々を過ごす中で俳句を詠む機会はなかなかありませんが、もしまた俳句とふれあうことがあれば、次は冬だけでなく様々な季節を感じる句を詠んでみたいなどと思っています。



カウンセリングルームから

スクールカウンセラー

スクールカウンセラー（SC）をはじめて20年になりました。様々なケースに関わってきましたが、印象的なのはコロナ禍のことです。突然の全国一斉休校とその後の学校現場の混乱。SC業務も不本意ながら休止せざるをえませんでした。カウンセリングは「会って話す」ことで、心のもやもやが整理されます。リモートや電話ではどうしても限界があります。先が見えないまま、手探りで対策を講じて支援をしていたことが思い出されます。学校現場も今ではあの大変な時期がなかったかのように戻っていますが、「学校がなかった日々」の影響は、どこかで残っているように思います。具体的には、不

登校数の大幅な増加です。ポストコロナの2023年度、全国の小中学校の不登校数は34万人。20年度以降は15万人の増加という状況です。不登校は様々な要因が絡まって起きるので、簡単には言えないのですが、コロナ禍を経て、「子どものたちの心と生活」に大きな変化が生じているのだと思います。子どもの学びについて「学校に毎日通い、教室に入って集団で勉強するもの」という従来の価値観が揺らいだのではないのでしょうか？現在の学校教育は、近代になり、大量の労働者を効率よく育成する必要から生まれました。ITの進化と時代の価値観の変化とともに「子どもの学びと心」もこれから変わっていくでしょう。思えば、コロナ休校の時期は、すべての子どもたちが自宅学習扱いになったために、名目上は「不登校ゼロ」が実現したという不思議なことが起きたのでした……。

小学校 いっせーの一せっ!!

1年生担任

6月18日(水)午後、第54回ひこうき大会が行われました。当日、天候により、予定と若干変更したところもありましたが、子どもたちは最後まで一生懸命に取り組んでいました。

はじめに、開会式で会長の挨拶がありました。プログラムや大会での注意事項を説明し、いよいよ本番が始まりました。低学年・高学年に分かれて、低学年は距離を、高学年は滞空時間を競います。

「いっせーの一せっ!!」の掛け声に合わせて、空高く思いっきり飛ばします。「練習よりもよく飛んだ!」と嬉しそうに話す子もいれば、「難しい…」とつぶやく子もいました。ですが、どの子も、練習の成果を存分に発揮することができたのではないかなと感じます。

さて、今回のひこうき大会に初めて参加したのが、1年生です。この日のために、他学年同様に1年生も準備をしてきました。まず、5月31日(土)の授業参観の後に行われた「ひこうき教室」では、大会で実際に飛ばすひこうきと同じ種類のを、みんなで一緒に作りました。複雑な折り方に苦戦する子もいましたが、最後は素敵に仕上げることができました。ひこうきの

準備ができれば、早速ひこうきを飛ばしました。主に学級の時間を使って、『つま先をラインに合わせよう』『飛ばすときの姿に気をつけよう』『遠くに飛ばそう』などを意識し、何度も練習をしました。初めのうちはなかなか飛ばすことができなかった子も、だんだんと飛ばすことができるようになり、嬉しそうな表情を見せてくれるようになりました。

そんなひこうき大会は、東星学園小学校の代々伝わる学校行事です。子どもたちはもちろん、先生たち自身も楽しみながら取り組みます。

また来年、「いっせーの一せっ!!」の掛け声で空高く舞うひこうきが見られることを、楽しみにしています。



修学旅行

6年生担任

6年生はこの夏、湯ノ丸高原へ修学旅行に行ってきました。6年生は「全力で思いやり、全員で作る最高学年」をクラス目標にしています。そこから、修学旅行のテーマを『自然やみんなと、仲良く、いい思い出に残る修学旅行』に決定しました。

出発の日、バスの中からすでに大盛り上がり!レクリエーション係が準備したゲームやクイズで、子どもたちはもちろん、先生たちも(校長先生も!)笑顔いっぱい。楽しい時間はあっという間に過ぎていきました。道中、鬼押し出し園や鎌原観音堂、孀恋郷土資料館に訪れ、事前に学習した高原植物や浅間山の噴火について、実際に見て、感じて学びを深めることができました。

夜には、レクリエーション係によるオリジナルのレク大会が開催されました。司会進行やルール決め、盛り上げ役まで、すべて自分たちで工夫しながら進める姿に、子供たちの頼もしさを感じました。レク係だけでなく、修学旅行のために一人ひとりに係の仕事があり、事前準備から、当日の運営まで全員で力を合わせて過ごすことができました。

二日目は、湯ノ丸山に登りました。6年生は遠足で

高尾山に登っており、その経験が自信につながっていたようです。急な山道が見えても気合いを入れ始める子どもたち。登山されている一般の方にも励ましの言葉をいただいて、見事山頂につきました。山頂では、たくさんのトンボが舞い、美しい景色をスケッチしたり、俳句にして味わったりと、自然の中で心豊かな時間を過ごしました。夜、外に出て森の散策へ。耳を澄ませると、都会では聞こえない生き物の声や風の音がしました。「あっという間だったね」と名残惜しそうに話しながら最後の夜を迎えました。最終日は池の平へハイキング。澄んだ空気と豊かな自然をいっぱい感じて修学旅行を締めくくりました。

今回の修学旅行では、普段の学校の中だと見逃してしまいそうな、6年生の成長や魅力がたくさん見られました。自分の役割をしっかりと果たす姿、誰に言われるでもなく進んで片付けをする姿、自然に心を動かされる姿、疲れていても「あと少し!」と挑戦する姿…。子どもたちの一人ひとりの力が、修学旅行の中で輝いていました。

みんなが自然と笑顔になり、みんながそれぞれの力を発揮できた、いい思い出に残る修学旅行になったと思います。この経験がこれからの学校生活に活かされていくことが楽しみです。

はじめての夏期学校

4 年生副担任

7月28日(月)から7月30日(水)にかけて、山梨県にて夏期学校が行われました。学級の時間を利用した調べ学習や各系の準備など、事前学習の段階から、前向きに取り組んでいる様子が見られました。

1日目、たくさんの荷物を抱えて子どもたちが登校。とにかく楽しみだという子、3日間家族と離れるのは少し不安だという子など様々でしたが、それぞれの思いを込めて、バスは出発しました。楽しい空気が流れる中、最初の目的地、山梨県立リニア見学センターに到着しました。館内には実際の試験車両の展示や、超電導リニアの仕組みや原理を体験しながら学ぶことができる展示品があり、子どもたちも大満足の様子。その後は山梨県立富士山世界遺産センターを見学し、宿舎では、夜にキャンプファイヤーを行いました。火を囲む子どもたちの笑顔はとても眩しく、絆や友情がより深まったと感じました。

2日目の朝、みんな元気いっぱい外に出てきて朝礼を行いました。朝食をとり、意気揚々と精進湖に向かいます。昨年のハイキングと比べると、今回は易しめのコースだったようですが、はじめての夏期学校に

臨む4年生の表情からは、「楽しい」と「疲れた」の2つの気持ちを感じ取りました。そして午後はいよいよすいか割り、子どもたちも楽しみにしていました。みんなで協力してすいかを割り、おいしそうに食べる彼らの表情はとても幸せそうでした。この日はナイトハイクを行いました。普段とは異なる夜の活動、子どもの表情も新鮮です。最初は少し怖がる様子も見られましたが、夜の山からでしか得られないパワーを全身で感じ、夏期学校ならではの時間を存分に満喫することができたと感じました。

最終日、宿舎の方にお礼の挨拶をして、富岳風穴へ行きました。洞窟の中は思った以上に寒く、夏なのに冬のような少し不思議な体験ができました。その後、30分ほど林の中を散策し、子どもたちも疲れ模様。お土産の購入や昼食を済ませた後、山梨県に別れを告げて、東星学園へ無事帰ってきました。

2泊3日の夏期学校、4,5年生ともに素晴らしい姿を見せてくれました。お土産購入では2000円ピタリ賞を狙おう、と張り切りつつも頭をフル回転させているような子もいました。家族から離れ、自分のことは自分でやらなければいけない環境の中、お互いに助け合っって子どもたちが成長していく姿は、とても尊いものでした。今回学んだことを、これからの学校生活や日常生活に活かしてくれたらと思います。

東星なつまつり

5 年生担任

8月2日に東星なつまつりを行いました。東星なつまつりには、在学する低学年の希望者と本校に関心を寄せてくださった方々が集い、楽しい時間を過ごしました。

てづくりコーナーには、こまやキャラクターカード、うちわの手作り体験があり、子どもたちは自分の好きな色や夏をイメージした色を使って色を塗ったり、絵を描いたりしてオリジナルグッズをたくさん作っていました。どれもとても楽しかったようで、出来上がったものを保護者の方や先生たちに笑顔で見せに行っているのが印象的でした。

ゲームコーナーには、ボール投げと輪投げのコーナーが設けられ、普段の教室とは違う雰囲気や法被を着た先生たちの姿から子どもたちの気分も上がり、小学生も未就学の子たちも楽しそうに何度も何度も挑戦する姿がありました。

昨年度から始まったわくわくコンサートでは、小学校の音楽の先生と楽器演奏の得意な先生方が、ピアノとバイオリンの音色を聴かせてくれました。子どもたちがよく知る曲や学校で歌ったことのある曲で、手拍

子をしたり歌を口ずさんだりしながら音楽に耳を傾ける時間は、東星らしいとても温かな雰囲気に包まれていました。



最後は、夏といえばすいか割り。昨年にも参加した子どもたちは、朝からこの時間を楽しみにしていました。在学生もお客様も、みんなで声を掛け合って指示をして、当たった時には大喜び。会場が一つになった瞬間でした。おいしそうにすいかを頬張る子どもたちはこちらも笑顔になるような、輝いた表情をしていました。夏らしいお天気の中、楽しい夏のひと時をこうして過ごせたことに感謝し、これからもたくさんの方との繋がりを作っていきたいです。

フロジャク館が完成して 30年経ちました。

小学校職員

フロジャク館が新しく建てられてから、30年になります。

フロジャク館内にある資料室の年譜を見ていると、フロジャク館の前に建てられていた旧講堂は、昭和37年に建てられたとの記載がありますので、30年以上にわたって講堂としての役目を果たしてきたんだなと感じます。

旧講堂は私が東星に勤め始めてから数年ではありましたが、様々な形で利用されていたのを覚えています。始業式や終業式、当時は毎週1回あった小学校の音楽朝礼、また更には小学校音楽の授業で使っていたりと、今のフロジャク館の講堂使用と同じような使い方をされていました。

ただ、現在の講堂と旧講堂の使用について一番の違いは、旧講堂には空調がなく、当時の夏季は今ほど気温が高くなかったものの、それでも暑さを感じていました。

また、木造建築でしたので、外観も内観も、時代を

感じさせる建物でした。

旧講堂の解体時、小学校西階段の踊り場にある窓から解体の様子を見ていたのですが、鉄筋が入っていたのには驚きました。それを見ながら、「新しい講堂は、どんな外観なんだろう」と、ワクワクしながら出来上がるのを待っていた事を思い出します。

平成7年2月、フロジャク館落成。外観は思った以上に斬新な構えで、晴れた日など白い壁が一層輝いて見えました。

また、館内も旧講堂が1階建てだったのに対し、フロジャク館は2階建てとなり、また、ホールは地下で、旧講堂のホールよりも広々とした構造になっています。

パソコン室や図書室もあり、使いやすい形になっています。また資料室には学園の歴史や学園50年誌や60年誌、その他貴重な資料などが置かれています。

2階の新視聴覚室の入り口には、東星学園の卒業生による日本画「講堂の夕景」が壁に飾られていて、それを見るたびに懐かしい旧講堂の雰囲気を感じます。

フロジャク館は落成から30年経ちますが、いつまでも色褪せない建物として、大切に使い続けていきたいと思っています。

フロジャク館 中高図書室

中高部職員

フロジャク館完成前の中高図書室は、本校舎2階の一番東側（信愛病院側）にありました。現在は学習室として授業が行われている教室です。東側の壁に垂直に書架が並んでいました。廊下つきあたりの小部屋が書庫兼準備室で、司書室もなく、狭い図書室でした。

私が司書教諭として図書室に関わるようになってすぐにフロジャク館建築の準備が始まったので、私にとって本校舎2階の図書室は教員としてではなく、生徒時代の思い出の場所です。HR教室の並びですから、10分の休み時間でも気軽に行ける近い図書室で、休み時間のたびに訪れていた憩いの場所だったなと思い出します。

フロジャク館の2階に新しい図書室ができると聞いた時大学卒業後すぐの若い教員だった私にとって、新しい図書室について考えるというのはとても大きな仕事でした。

- ・司書室は閉鎖的にならず、司書室から顔を上げると全体が見渡せる書架の配置にしたい。
- ・少しリラックスして本を読めるように丸い机も置きたい。

・本の配置はNDCで壁に沿って。

など色々考えたはずなのですが、実はあまり思い出せません。フロジャク館落成式で全校生徒が新講堂に集まって聖歌を歌っている間にフロジャク館を歩きながら祝別の祈りをしてくださったミルサン神父様の後について行って新しい図書室に入ったという記憶が一番鮮明に残っています。

落成式の後図書室の引越をしました。引越屋さんを頼んだりせず、東星らしく、本を箱につめて、箱を持って階段を通過して、中庭はリヤカーで、という作業をみんなでしたと記憶しています。

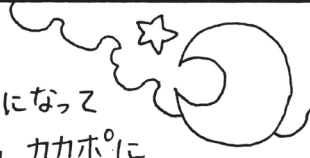
この原稿を書くにあたって当時の「学園だより」と「瑠璃草」を読み直してみました。平成6年5月の連休明けに古い講堂の解体が始まり、翌7年の2月4日が落成・祝別式でした。

「瑠璃草」に当時の教頭が、「このような動きの中でも創立者フロジャク師の心と、東星らしさを見失わないことは一番肝心なことです。」「新しい入れものにふさわしく中身の充実を図っていくことが、東星学園全体の責務と義務である」と書いています。

フロジャク館が完成して30年経ちました。この校舎を愛し、大事に使ってきた先輩方の思いをつないで、時代に合わせた中身の充実を図っていききたいと思えます。

令和の夏の暑さはおそろいですがね...から、し。どす。
 マイナスな言葉って聞くのはやですし、自分に向け
 られたものじゃなかったとしても心の消耗は強い
 ですよ。でも対人間と仲良くなる上で一番
 手取り早いので共通の敵を作ることなので
 中々に皮肉が交かっていますね(笑)ネガティブな
 内容は万人に共感しやすいですから。でもできることなら
 ネガポジを共有できる友達を
 作りたいですね。

...って訳で今回は
 今や世界一珍しい鳥になって
 しまった可愛らしい鳥、カカポに
 ついての話です。ネットでも一時期有名
 になったカカポはおもしろく、まず「すごく長生き
 で」平均60年は生き、90年生きる可能性もある
 そうです。体臭はなんとフリージアやハチミツ
 に似た甘い香りがするそうです。そして
 とても人なつこい!!
 (人の頭と交尾を
 しようとしたことも...)



無知であることは結果
 自分を滅ぼすことにも...
 どうせいキッズ 職員

世界で唯一の飛べないオウム!!

ピーポ
 ピーポ

カカポ



カカポとはマオリ語
 で『夜のオウム』という
 意味で、その名の通り
 夜行性で夜は一人で
 行動しているそうです。
 嗅覚が発達していて
 木の実に探して
 食べている。(ちなみに
 リムの実が好きらしい...)



世界一重いオウムでもある。

3~4kgありニワトリに
 すると2~3羽分にも
 なる。羽は退化し
 ていて小さく、木など
 から飛び下りる
 くらいにしか使わ
 ない。

「世界一無防備な鳥」
 なので、昔は
 100万羽も居た

といわれるカカポ
 も絶滅の危機に...

体はあざやかな緑色で
 巨大なワシから身を隠すために
 緑色になっていったとも考えられています。

☆...☆...☆...☆...☆...☆...☆...☆...☆...☆
 先住民やヨーロッパ移民が持ちこんだ
 ネコや犬、イタチなどにとってはカカポは
 絶好のエモノだった!!(ハチミツの香りも
 見付けやすい原因に...)天敵という概念が
 そもそもなかった上に危機がせまるとフリーズ
 してしまうカカポは皆んなのカモに...
 (ちなみに卵はネズミに喰い尽されることに...)

ほんのわずかにしか生き残ったカカポを保護
 して個体数を増やそうとする試みが始
 まったが失敗はありつつも現在カカポの
 数は2025年時点で 252羽まで回復
 したのだ!! また昔のように多くのカカポが
 見られる時代が来ることを願いたい!!

広 報

本学園の広報活動、並びに試験などについてお知らせいたします。

【小学校】

- 第1回 入学試験 (A日程) 11月 1日 (土)
- 第1回 入学試験 (B日程) 11月 2日 (日)
- 第2回 入学試験 11月15日 (土)
- 第3回 入学試験 12月14日 (日)
- 第4回 入学試験 1月10日 (土)

【中学校・高校】

- 公開授業日 11月 1日(土)
- 公開授業期間 4日(火)～ 6日(木)、
11日(火)～ 13日(木)

- 第3回高校学校説明会 11月29日(土)
- 第3回中学学校説明会 12月 6日(土)
- 中学入試体験・解説会 12月 6日(土)

～入学試験～

- 高校推薦入試 (A 推薦) 1月22日(木)
- 高校推薦入試 (B 推薦) 1月23日(金)
- 中学第1回一般入試 2月 1日(日) 午前
- 中学国語1教科入試 2月 1日(日) 午後
- 中学得意2教科入試 2月 2日(月) 午前
- 中学第2回一般入試 2月 2日(月) 午後
- 中学第3回一般入試 2月 4日(水) 午前
- 高校第1回一般入試 2月10日(火)
- 高校第2回一般入試 2月11日(水・祝)

学園行事予定 (2025年10月～2026年1月)

	中学校・高等学校	小 学 校		中学校・高等学校	小 学 校
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・後期始業式 ・赤い羽根共同募金 ・体育祭 ・高校1・2年生 学力テスト ・東星バザー 	<ul style="list-style-type: none"> ・後期始業式 ・体育祭 ・東星バザー 	12月	<ul style="list-style-type: none"> ・中学 GTEC ・中学学校説明会 ・入試体験会・解説会 (小学6年生対象) ・高校学習旅行 ・クリスマス会終業日 	<ul style="list-style-type: none"> ・1～5年生懇談会 ・第3回入学試験 ・クリスマス会 ・終業日
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・校外学習 ・中学ミサ ・学習参観・学級懇談会 ・中間テスト ・中学学習旅行 ・高校学校説明会 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回入学試験 (A日程) ・第1回入学試験 (B日程) ・1～3年遠足 ・6年生懇談会 ・第2回入学試験 ・展示会 ・授業参観 	1月	<ul style="list-style-type: none"> ・始業日 ・高校1年生学力テスト ・高校2年生模試 ・高校推薦入試 ・英語検定 ・中学学力テスト ・漢字検定 ・高校海外留学 (～3月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・始業日 ・第4回入学試験 ・低学年朗読大会

児童・生徒の活動報告

【表彰】

第62回清瀬市夏季青少年卓球大会

- 小学生女子 準優勝 5年 I・K
- 小学生男子 準優勝 6年 W・H

第32回 都留市ふれあい全国俳句大会

- 長谷川 權先生 入選 高等部2年 K・R
- 正木ゆう子先生 入選 高等部2年 K・R

編集後記

暑い暑い夏が終わり、お彼岸も過ぎました。東星学園は10月からの後期、行事の多い季節を迎えています。

どの行事も、しっかりと各自が意識して働き、良い形で終われるといいですね。

(編集担当)